

## 第 25 回 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会 議事要旨

1. 日 時：令和 8 年 7 月 22 日（水） 13：00～15：00

2. 場 所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者：

（1）委員

白坂分科会長、片岡分科会長代理、青木委員、栗原委員、林田委員、南委員

（2）事務局

風木局長、渡邊審議官、三木参事官、河原参事官

（3）宇宙航空研究開発機構（JAXA）

岡田理事、奥野理事、佐藤理事、瀧口理事、大関部長、小野田部長、  
二俣部長

4. 議事要旨

（1）宇宙航空研究開発機構の令和 7 年度における業務実績評価について

宇宙航空研究開発機構の令和 7 年度における業務実績評価について事務局及び JAXA から資料に基づき説明を行い、質疑応答を行った。主な議論は以下のとおり。

（○委員からの質問・意見、●JAXA からの回答）

○昨年度までは S 評価や A 評価が多く、自己評価が高めではないかとの意見が多く見られたが、今年度はより適切な評価となっている印象である。どのような考え方で今回の評価に至ったのか。また、昨年度から大きく変化した理由は何か。

●第 5 期中長期目標期間の開始に当たり、前期の大臣評価でのご意見を重く受け留め、理事長はじめ経営陣が検討を重ねた。自己評価に当たっては、JAXA は世界レベルの成果を創出することが基より期待される組織であることを改めて踏まえ、如何にあるべきか考え、今年度のより厳格な評価に至った。

○「世界レベルの成果を求められる組織」という考え方が今回の評価の前提として示されたが、中長期目標期間を通じて何をもって世界レベルに達したとするのか、また、S 評価に相当する達成水準をどのように考えるのかについて、組織内で目線合わせを行う必要があるのではないか。年度ごとの評価だけでなく、中長期的なゴールを明確に設定することが

重要である。

●まず、PDCAにおける「計画設定」段階での課題として受け止めている。年度計画の策定に当たって計画が持つ困難性の表現は難しいが、世界レベルの困難なプロジェクトで成果を出しても計画通り達成だから B とはならないようにしたい。また、計画上表現し切れないものは、評価の段階で明確に S なり A なり説明できるよう努めていく。計画と評価の二段階で適切に運用していきたい。

その後、委員のみで評価の最終審議が行われ、本分科会としての宇宙航空研究開発機構の令和 7 年度における業務実績評価の見解を取りまとめた。

以 上